

令和3年度 日田高等学校 3学期始業式 式辞

新年あけましておめでとう。いよいよ1年の集大成となる3学期を迎えることとなりました。3年生にとっては高校生活最後の学期です。共通テストや個別試験、4月からの新生活に向けて最後の取組を行う学期です。1・2年生は学校生活の中心として、これまでの振り返りを行い、学習や部活動、学校行事などの目標に向けて大きく成長する学期です。

このように3学期はいろいろな意味で節目となる学期です。節目と言えば竹の節目を思い出す人が多いでしょうが、人の成長にも必ず節目があります。竹は節目では成長が遅くなりますが、節目ができるとそこから成長が著しくなります。1日に数十センチ程度伸びることがあるそうです。そのすさまじい成長ぶりにばかり目が行きがちになりますが、実は成長が止まったり、ゆっくりしているように見えたりするその節目の時期こそが重要な役割を果たしているのです。節目は竹の成長に大きく影響すると同時に、強度にも影響を与えます。そして成長した竹は強さと同時にしなやかさも兼ね備えています。

人生においても節目は個人の成長につながるとともに、困難な問題や、危機的な状況に遭遇しても立ち直ることができるしなやかさ（レジリエンス）や強さを作ってくれます。この成長や強さ、しなやかさを作ってくれる節目の時は、竹の成長と同じようになかなか思うような結果が伴わない場合が多いのです。でもその間も少しずつ次の成長に向けて確実に前進しているのです。

では人生における節目とは何でしょうか。このような学期ごとに行われる式や学校行事などがよく節目と言われますが、もっと広い意味で節目とは、日常生活の中で体験する様々な出来事だと思えます。例えば授業や読書などもそれにあたります。授業や読書で知った知識や授業中の先生の言葉、題材を通じて知った概念や文化、背景の知識等もそれらに含まれます。探究活動の発表や取組そのもの、対外的な行事への参加、部活動、友達との出会いなどもそうです。このように直接的であれ間接的であれ、毎日の生活での様々な体験こそが節目に繋がっていくものなのです。

教育合宿などで利用する宿泊施設には「体験の風をおこそう」と書かれています。それだけ、いろいろなことを「体験」することが個人の成長には重要だということです。それでは「体験」と「経験」の違いは何でしょうか？少し考えてみてください。英語では両方とも experience と言いますが、日本語では両者を分けてつかいます。英々辞書を見ると experience には、①event（出来事）、②knowledge, skill（知識・技能）とあります。前者の event が実際に何か行動すること、つまり「体験」であるのに対して、後者の knowledge, skill がその体験によって学んだ知

識や技能に焦点が当てられている「経験」を表すのだと思います。つまり、「経験」とは「体験」したうえで知識や技能を身に付けることです。「体験の風をおこそう」とは、様々な「体験」を通して、そこから学び、知識や技能を身に付け、今後の自分の考えや行動に何らかの影響を与えていこうということです。

「冷暖自知」という言葉がありますが、もともとは仏教の言葉で、「水が冷たいか暖かいかは、実際に飲んでみなければわからない」という意味で、そこから、「何事も体験してみないと、自分で本当に知ることはできない」という意味になります。だからこそ、行動すること、つまり様々な体験をすることが重要なのです。何かを学ぶためにはまず自分が動く、そのことによって自分自身のうちでは確実に何かが変わっていくのです。その何かが変わっていくということが、自分の興味関心につながり、その興味関心が将来の目標や夢に繋がっていくのです。

日田高の校訓である「積極」とは、「自ら進んで様々な体験をし、その体験を通して自分の興味関心を深め、自分の進むべき道を考える姿勢」と言えるのではないのでしょうか。節目は英語で turning point と言われますが、この1年は様々なことを体験し、自分の興味関心とつながる何かを経験し、自分の目標を少しずつ明確にしていってほしいと思います。節目は日常のいたるところに潜んでおり、それを turning point とできるかできないかは個人にかかっています。

最後になりますが、今年もまだまだ、新型コロナの対応が続いていきます。各自が感染症対策を万全にし、有意義な3学期を送ってもらいたいと思います。以上であいさつを終わります。

令和4年1月11日 日田高校 校長 江藤 陽二